

EALGA

JEITA ECセンター 2010年度の活動方針

企画部会

JEITA
EC
CENTER

－ 目 次 －

1. ECセンター活動方針

2. 業際化の深耕

3. 利用者利便性の追求

4. 国際化の推進

1. ECセンター活動方針

1. JEITA ECセンターの活動方針

1.1 2009年度活動総括

1) 業際化への対応

- ・環境情報流通実証実験
- ・自動車業界とのEDI実証

2) 国際化への対応

- ・海外通常取引モデルのドラフト発行
- ・ECALSの日韓連携

3) ECALGA実用化の促進

- ・ECM技術情報交換お試しサイトの運用
- ・標準多品納品書・C-3ラベルの見直し

4) 中堅中小企業への対応

- ・WEB-EDI認定活動
- ・ASP間運用標準ガイドラインの作成着手
- ・JEITA共通クライアントのバージョンアップ

1. JEITA ECセンターの活動方針

1.2 2010年度活動方針

1) 業際化の深耕

1-1) 第二次環境情報流通実証実験の実施

- ・実用化シーンを想定したシナリオ
- ・運用条件の整備と課題抽出

1-2) 自動車業界とのEDI実用化促進

- ・対象ビジネスドキュメントの拡充
- ・実用化企業の拡大
- ・業際EDIメッセージの整備

2) 利用者利便性の追求

2-1) ASP連携の実用化

2-2) データ交換方式選択の自由度向上

3) 国際化の推進

3-1) 海外取引モデルの標準整備と実用化

3-2) 日中EC連携の模索

3-3) ECALS辞書のグローバル標準化

(IEC、eCI@ss)

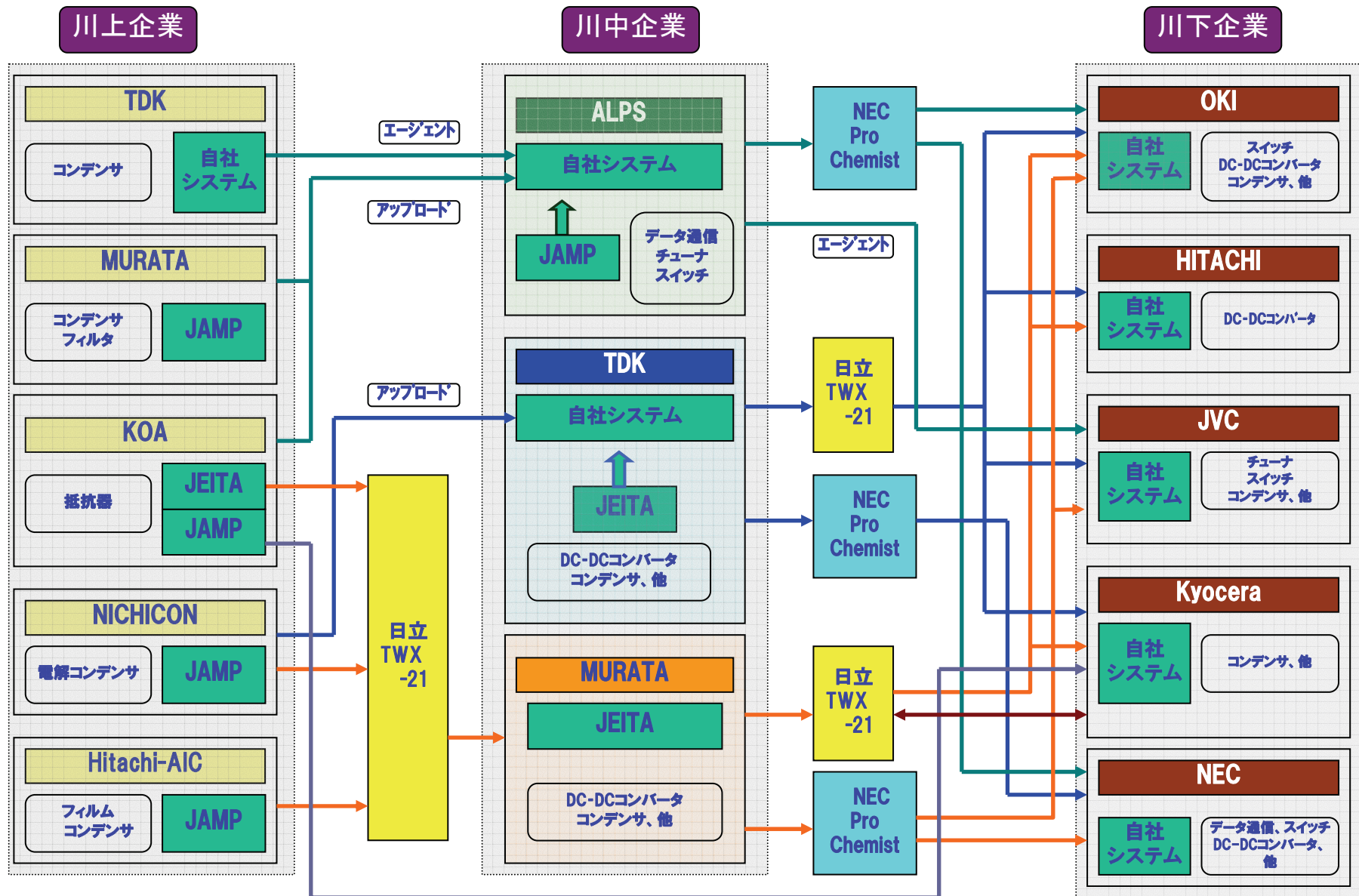
2. 業際化の深耕

2. 1 第二次環境情報流通実証実験の実施

2. 2 自動車業界とのEDI実用化の促進

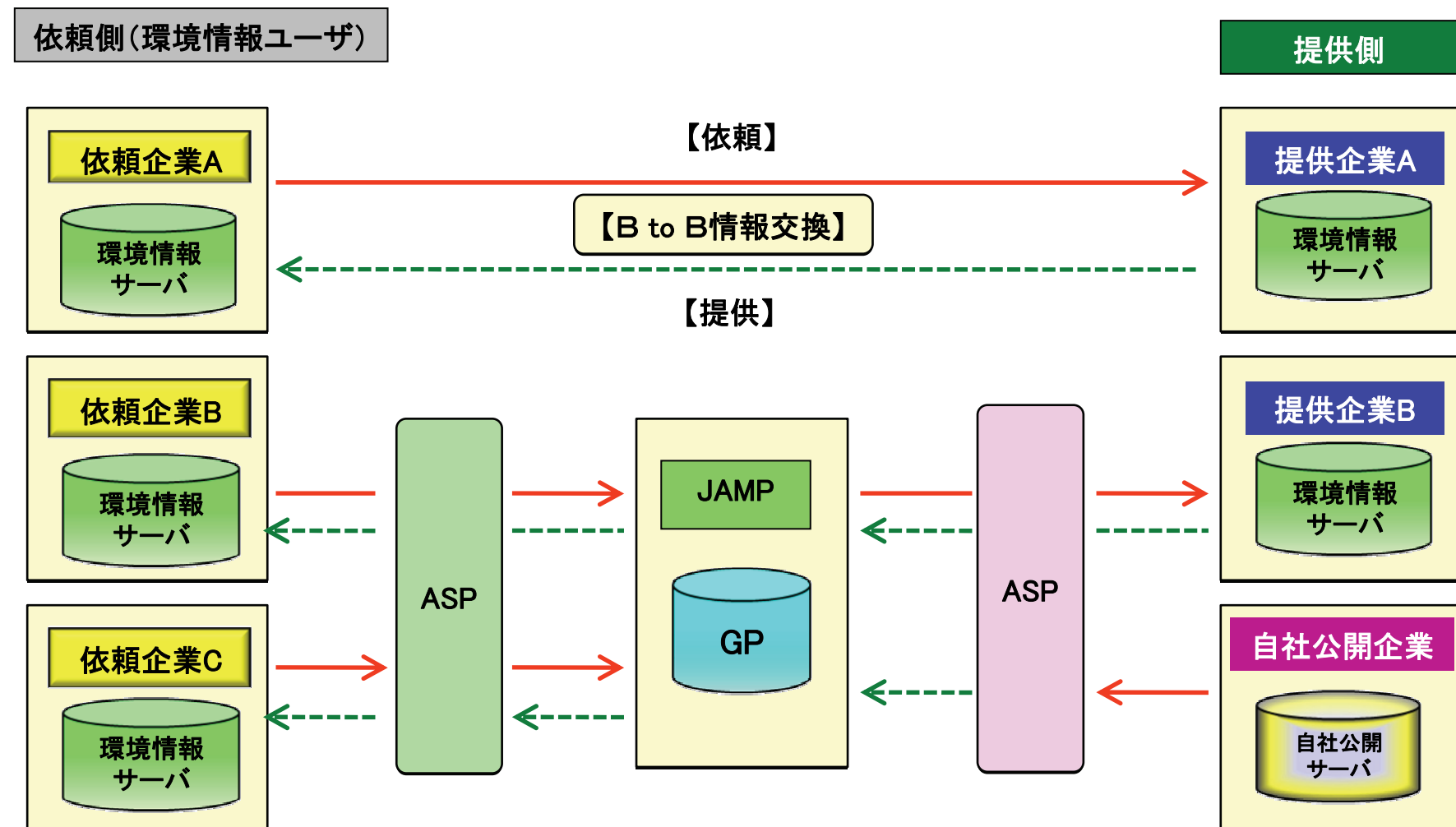
2. 1 第二次環境情報流通実証実験の実施

2. 1. 1 第一次実証実験の概要（2009年度実施パターン概要図）



2.1.2 第二次実証実験の計画概要

(1) 実証実験パターン概要図



2.1.2 第二次実証実験の計画概要

(2) 確認項目

実運用を想定した環境とシナリオによる情報流通基盤の整備と課題の抽出

- 1) 環境情報流通の情報交換プロセスにおける課題の抽出
- 2) AIS仕様更新(SVHC化学物質追加)後の互換性
- 3) AIS作成支援ツール-JAMAフォーマット間のデータ変換機能の確認
- 4) 業界を跨った情報交換および情報流通運用における課題の抽出

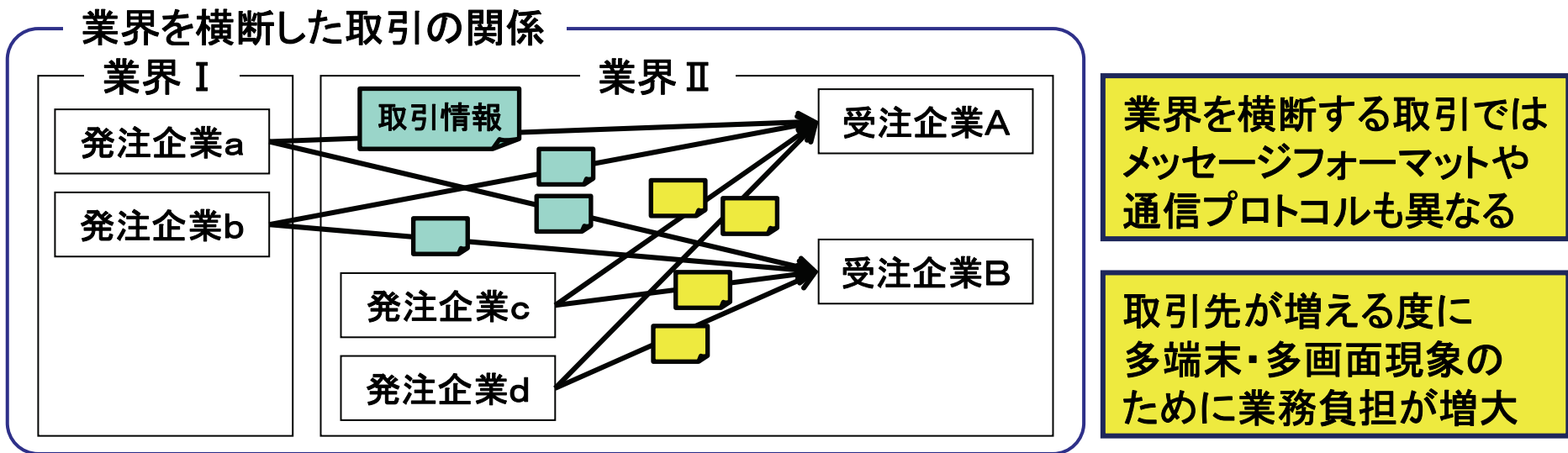
(3) 実施時期

2010年下期

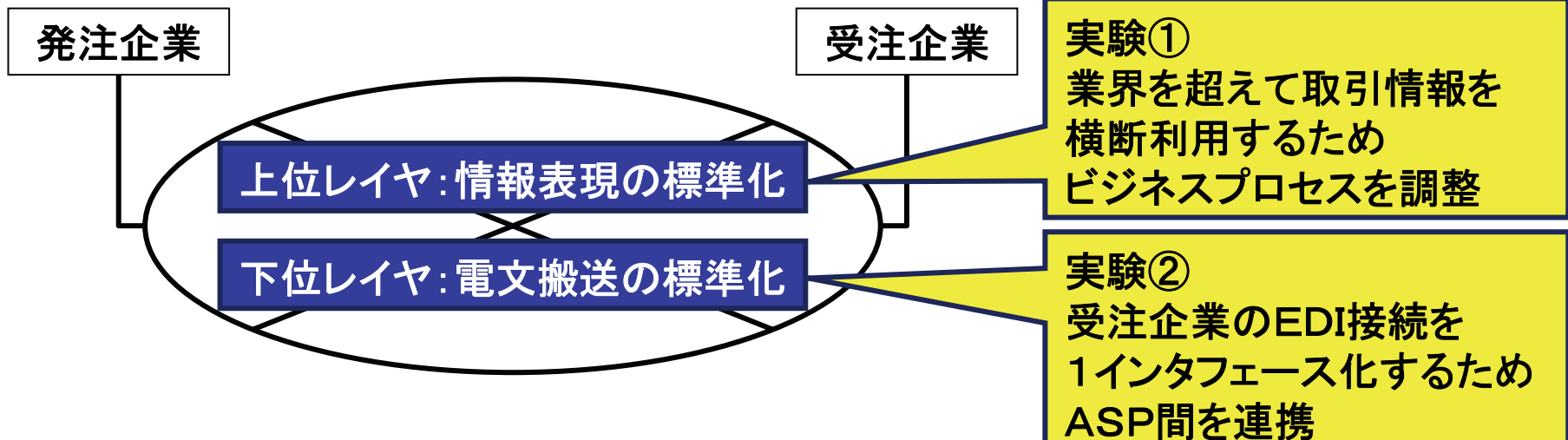
2. 2 自動車業界とのEDI実用化の促進

2.2.1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の取組

(1) 業界横断EDI実現に必要な2つの観点



業界横断EDI実現のために2つの観点から標準化を検討

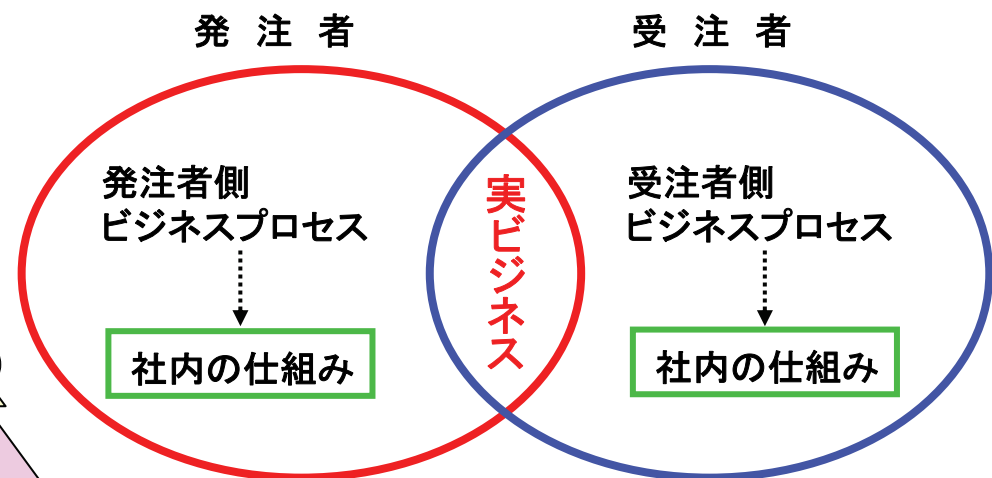
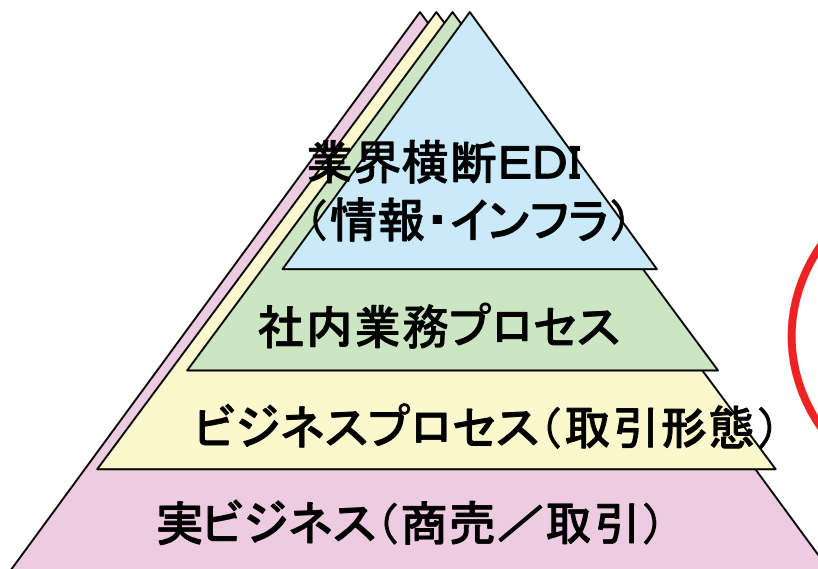


2. 2. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (2) 実験「業界横断情報連携」:ビジネスプロセス調整の行い方

1. 実ビジネス(商売／取引)の精査
2. ビジネスプロセスの整合性確保
3. 社内業務プロセスと一意のKey項目確保
4. 「商いの基本情報」へのマッピング

業界横断ビジネスインフラ
の実用には、これらの
検討手順を踏むことが必要となる

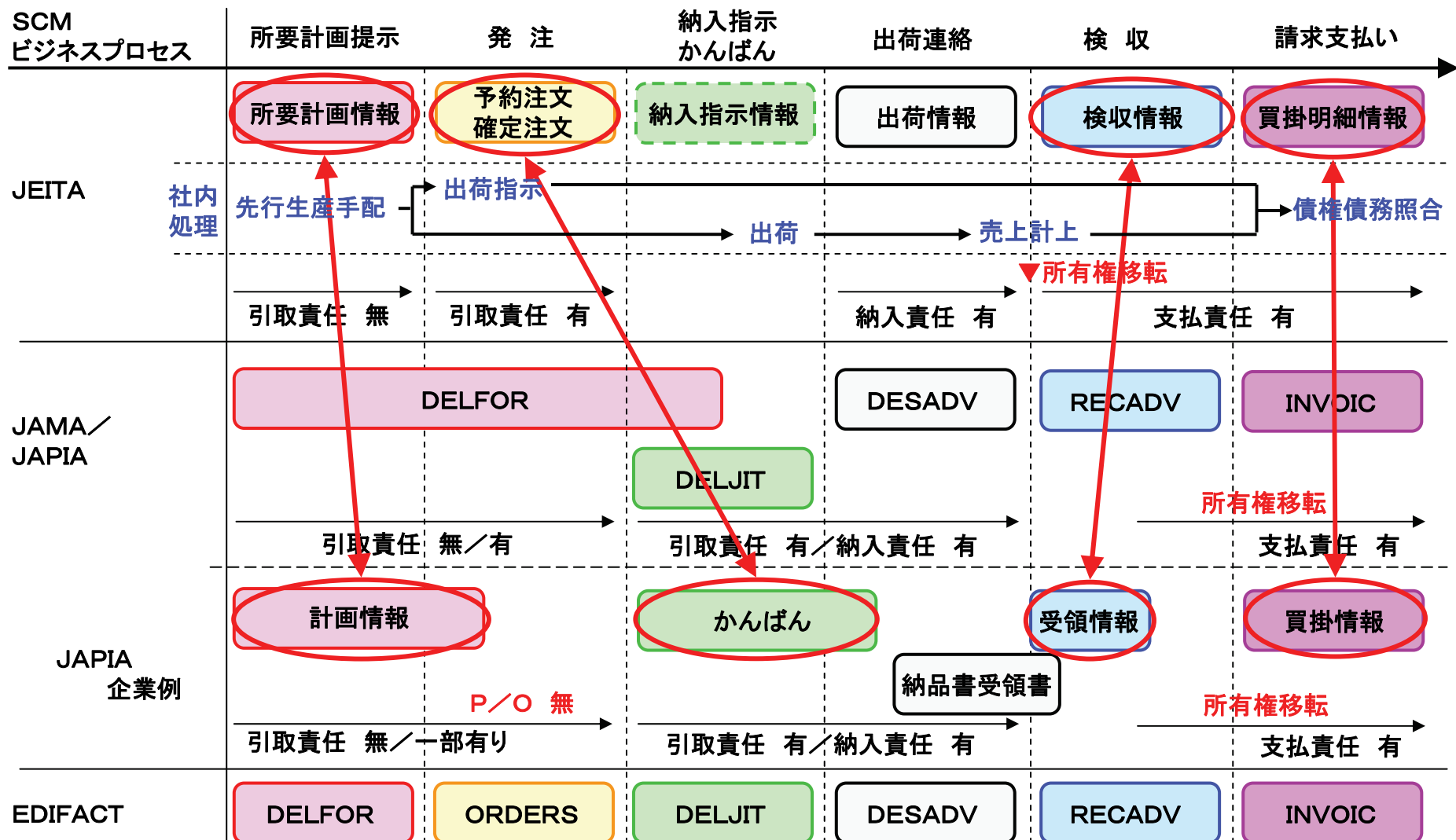
使える
業界横断フォーマット！



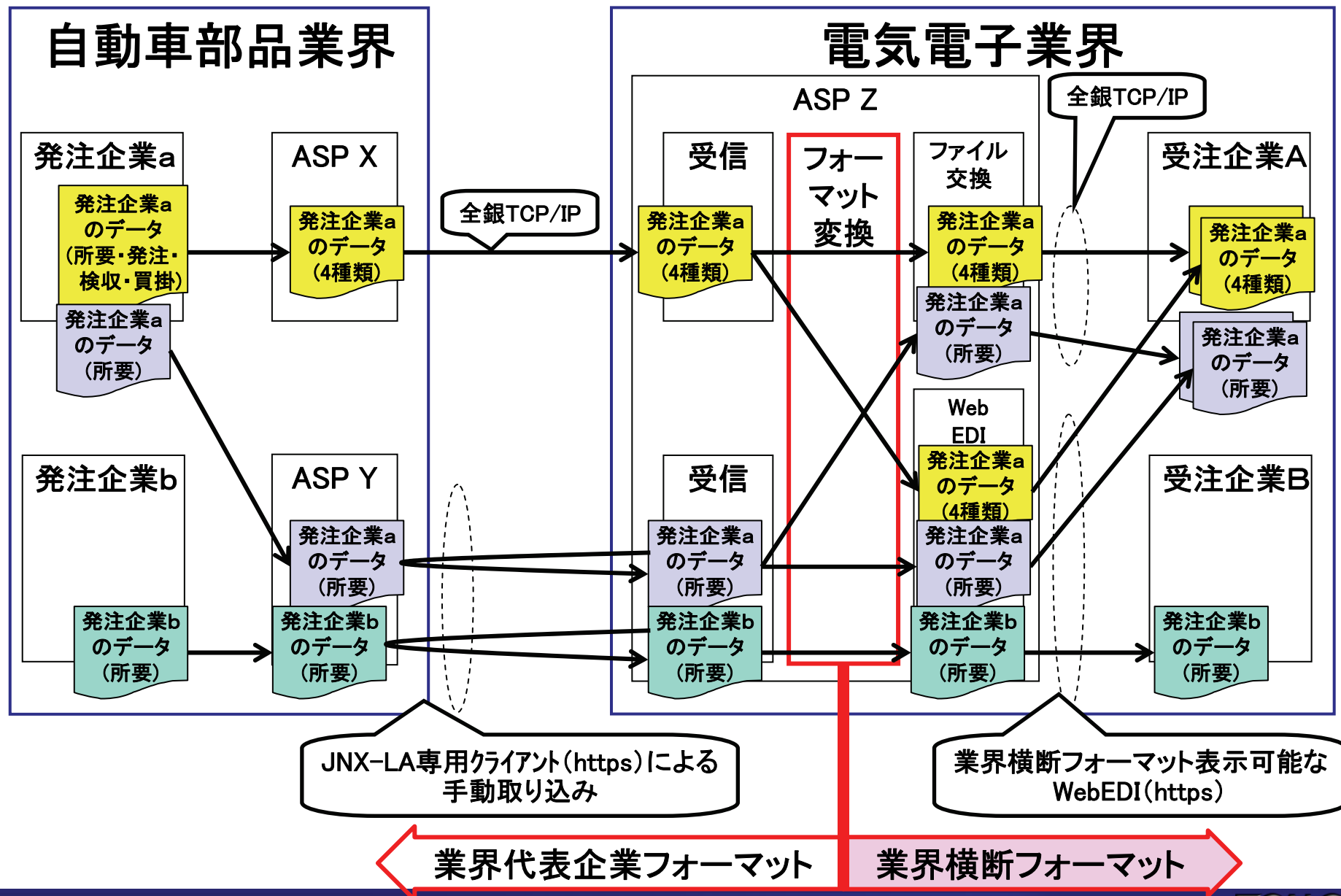
2.2.1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要

(3) 実験「業界横断情報連携」: ビジネスプロセス比較結果

実ビジネスを鑑み、「どのタイミング」の「どの情報」が受発注者双方にとって「ビジネス上何を意味するのか？」を摺り合わせることで業界間／企業間をシームレスに繋ぐ



2. 2. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (5) 実験「業界横断情報連携」: 実証実験結果(全体像)



2. 2. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (6) 実験「業界横断情報連携」: 実証実験結果(実験の成果)

成果

1. ビジネスプロセス調整による業界横断メッセージ検討方法論の標準化

単純な各業界毎の標準メッセージの比較により
業界横断メッセージを作るだけではなく、実ビジネス(商売/取引)の精査、
ビジネスプロセスの摺り合わせ、一意性のあるキーの設定という
「業界横断メッセージ検討の方法論の標準化」が、真の意味で使える
業界横断メッセージの作成に有効である。

2. 実業務を通じての業界横断メッセージフォーマットの活用性の確認

単に机上で複数の業界標準メッセージを横並びに比較検討し、マッピング
するだけでは、EDIにより社内システム連携をしても、社内業務との整合性が
取れず、運用できない懸念がある。
今回、実取引を行っている企業間で、実際の取引情報に基づく実証実験を
行うことで、その有効性を検証し、課題を抽出した。

3. EDI化の実現による業務効率向上

従来の紙ベースの運用に比べ、EDI化により情報伝達のスピード向上が
確認できた(1日程度の短縮)。
⇒ 出荷・生産計画などの業務担当者が早く、余裕を持って作業に着手
できるようになる。

2. 2. 2 今後の自動車業界とのEDI実用化の促進活動について

JEDICビジネスインフラ推進協議会との連携による活動の実施(案)

- ・業界横断メッセージ検討方法について、実業務における有効性確認を重ね、自動車部品業界と電気電子業界を始めとした業界横断メッセージの実用化
- ・今回対象外とした、注文変更や注文取消など、業務運用に必要となるメッセージについて、業界を横断したビジネスプロセス調整、業界横断メッセージフォーマット作成
- ・納期回答など受注企業⇒発注企業向けのメッセージも含めた、双方向のメッセージ交換実証実験の実施

3. 利用者利便性の追求

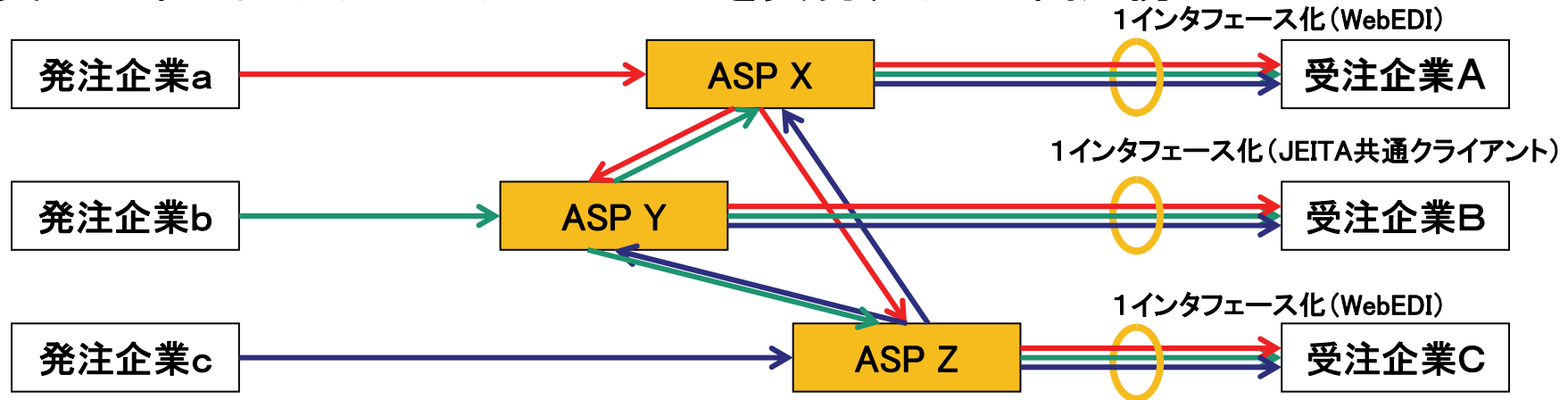
3. 1 ASP連携の実用化

3. 2 データ交換方式選択の自由度向上

3. 1 ASP連携の実用化

3. 1. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (2) 実験「ASP間連携」: 実装実験実証ガイドラインの必要性

受注企業における1インタフェース化を実現するASP間連携



しかし、仕様調整を個々に行うことは困難

実装仕様について広く標準化していくことが必要

現在発行されているebXMLの最新規格に対応

ASP事業者各社が
このガイドラインを参考にして
素早くebXMLによる接続が
できるように、
事前に取り決めるべき項目の
標準を検討

機能	規格	採用バージョン
メッセージサービス	ebMS (ebXML Message Service)	V3.0
コラボレーションプロトコル合意書	ebCPPA (ebXML Collaboration Protocol Profile and Agreement)	V2.0
ビジネスプロセス定義	ebBPSS (ebXML BPSS (Business Process Specification Schema))	V2.0

3. 1. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (3) 実験「ASP間連携」: 実証実験実装ガイドラインの概要

ebXML標準

ebXML標準では、通信に必要な具体的な実装方法やパラメータ利用方法については利用者に委ねられている。

ASP間
運用標準
ガイドライン
(JEITA/2009)

実証実験実装
ガイドライン
(今回作成)

「ASP間運用標準ガイドライン」を基に、ASPがebXMLを実装する上で必要となる利用範囲や、ASP間で事前に確認を取る必要がある内容(必要な動作環境情報やコード類)を規定

Business document message structure for ebXML MS. The image shows a diagram of a SOAP message structure and a table of characteristics for CPA (Collaboration Protocol Agreement).

要索属性*	値	属性の意味*
MessageCharacteristics 要素*
ackRequest
ackSignal
duplicate
syncRep
Transport
AccessAck

5.2 BPSS-Ackシグナルメッセージ

5.2.1 BPSS-Ackシグナルメッセージ機能

BPSS-Ack 機能とは、ビジネストランザクションのBPSSLレベルでの受信確認応答機能である。BPSS-Ack 機能を実現するためには、シグナルメッセージを利用する。本書においては、シグナルメッセージを出すタイミングを以下とする。

Receipt Ack*	Acceptance Ack*
OK: ASP受信後のバリデーションチェックが正常終了し、受信者がデータ受信できる状態となった場合。 NG: 受信者がデータ受信できる状態になる以前に、何らかの異常を検知した場合。	OK: 受信ASPより受信者が正常にデータ受信した場合、WebEDI の場合は、受信者がデータを参照できる状態となった場合。 NG: Receipt Ack 送信後、受信者がデータを受信す

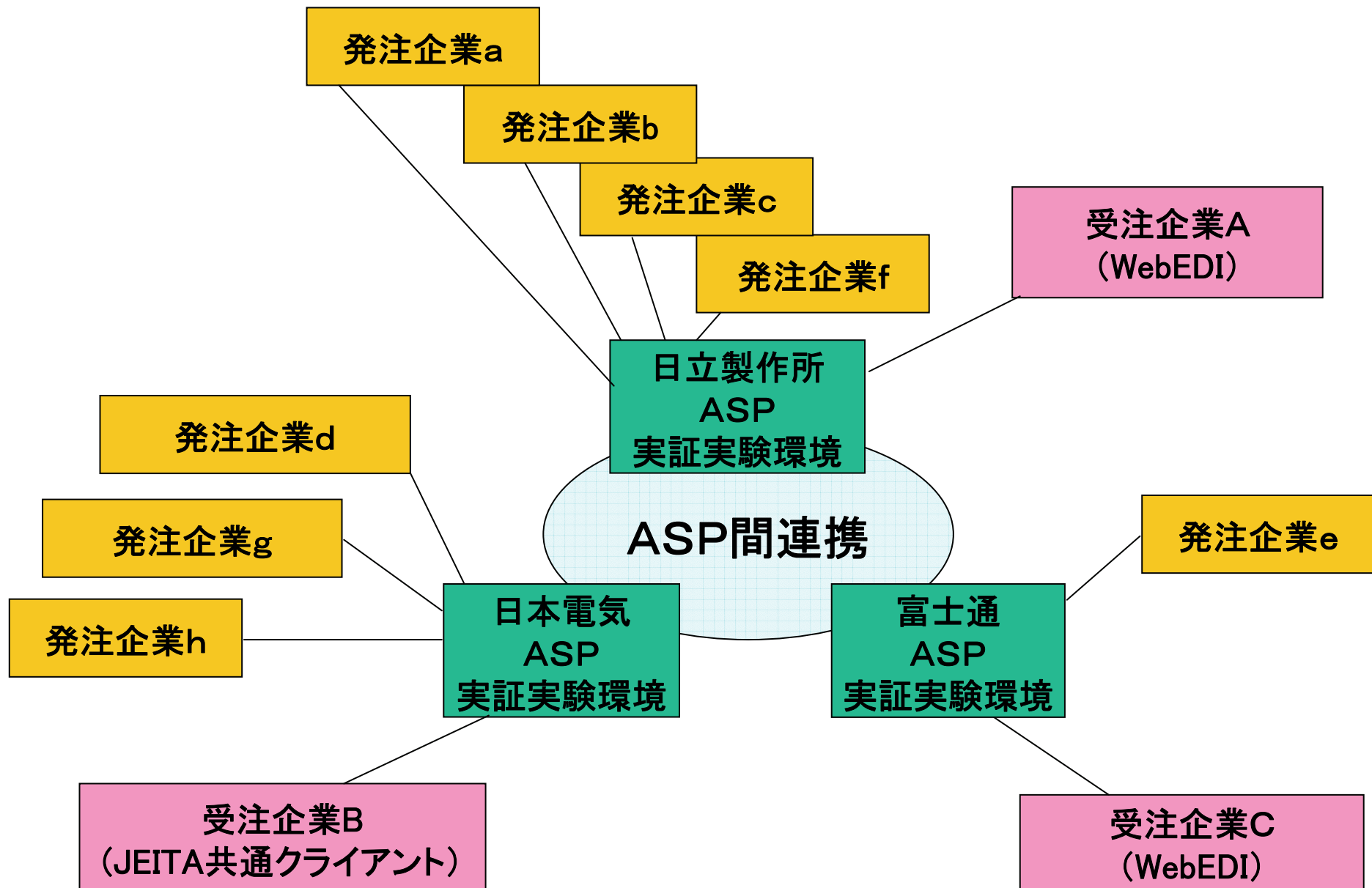
- 第1章 目的
 - 1-1 背景
 - 1-2 目的と位置づけ
- 第2章 概要
 - 2-1 概要
 - 2-2 規定範囲
- 第3章 メッセージサービスについて
 - 3-1 メッセージサービスの概要
 - 3-2 ebXML MSの実装について
 - 3-3 ビジネスドキュメントについて
- 第4章 CPAについて
 - 4-1 CPA
 - 4-2 CPPならびにCPAの規定
 - 4-3 CPAの設定方法
 - 4-4 CPA雛形の使用(設定)手順
- 第5章 BPSSについて
 - 5-1 ビジネスプロセス記述とBPSSの関係
 - 5-2 BPSS-Ackシグナルメッセージ
 - 5-3 ConversationID
 - 5-4 エラー時の動作定義
- 第6章 メッセージについて
 - 6-1 ebMSヘッダ

MS, CPA, BPSSに
ついて規定

メッセージ
フォーマットは
XML以外に
ECALGA/CIIや
EDIFACTなど
各種に対応可能

※MS : Message Service CPA : Collaboration Protocol Agreement BPSS : Business Process Specification Schema

3. 1. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (4) 実験「ASP間連携」: 実験参加企業の接続全体像



3. 1. 1 2009年度の活動 経産省ビジネスインフラ事業の概要 (5) 実験「ASP間連携」: 実証実験参加企業アンケート結果

アンケート結果(抜粋)

1. WebEDIの利便性向上

- ・多画面現象が解消され、一度のログインで処理が可能となるので、作業効率向上に繋がる。
- ・複数の発注企業からの注文情報が1画面で確認でき、見やすくなる。
- ・注文書・納品書の印刷を一括処理できるようになり、印刷業務の効率向上に繋がる。

2. システム運用効率向上

- ・インターフェースが統一され、社内システム連携機能構築のコスト効率が向上する。

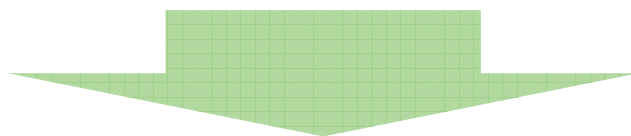
3. WebEDI操作統一による業務改善

- ・担当者不在時に代理者による操作が必要な場合にも、操作方法が統一されていれば戸惑うことなく、また操作ミスの心配も少なくなる。
- ・操作業務の集約して専任の担当者に任せることで、営業担当者を本来の営業活動に専念させることができるようになる。

3. 1. 2 今後のASP連携実用化の活動について

ASP間連携による1インタフェース化の取組

- ・注文変更や納期回答など、今回対象外としたメッセージ、双方向のメッセージ交換実証実験の実施検討
- ・「JEITA/ECALGA ebXML手順 実装ガイドライン」のebMS3.0への対応見直し
- ・ASP間連携のサービス化に向けて、ASPサービス利用者の留意点を含めた運用ルールの検討とガイドラインの作成



ASP連携標準ガイド 3部作

「システム編」、「運用ルール編」、「実装ガイド」の完成とリリース

(2009/04リリース済)

(2011/04リリース予定)

(2010上期リリース予定)

3. 2 データ交換方式選択の自由度向上

3.2 データ交換方式選択の自由度向上

(1) 現状の標準方式

項	検討項目		SCM系	ECM系
1	メッセージ形式		CII・XML	XML
2	ファイル参照方式		URL方式	添付方式
3	ビジネスプロセス		業務毎に記載(業務の集合という概念)	モデルとビジネスプロセスが一体
4	BPSS		×	○
5	交換方式	CII	○	×
		ebXML	○	○
		Web	○	×
		メール	○	×

3.2 データ交換方式選択の自由度向上

(2) 現状の問題点

- ebXML/ebMSサーバへの投資対効果が見えない。
- プロセスを自動制御できるほど業務が標準化されていない。
 - ➡ BPSSのみで業務プロセスのコントロールはできない。
- ASPによるebXML交換サービスが提供されない。
- Web-EDIの先行により各社独自方式が先行。
- 中小企業導入にはコスト高。

3.2 データ交換方式選択の自由度向上

(3) ECM系への適用

- Web-EDIでの標準化検討
- メールEDIでの標準化検討
- ASP間接続およびASP接続プロトコルでの交換方式の検討

4. 国際化の推進

4. 国際化の推進

- 1) 海外取引モデルの標準整備と実用化
- 2) 日中EC連携の模索
- 3) ECALS辞書のグローバル標準化
(IEC、eCI@ss)